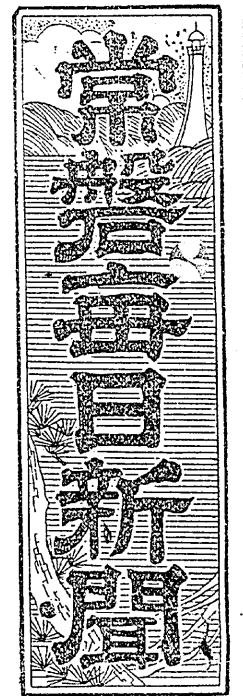


刊夕 日八十月六



定価 一月五元 三月十五元 半年三十元 一年六十元  
 発行所 常盤新報社 印刷所 常盤新報社  
 電話 六三〇番

紅い小鳩 [一]

—最近の若い—  
 女性の問題—

村岡花子

たつた一本の絹の糸、  
 それもわたしが此の手で  
 より合せた、  
 柔い絹の糸で結へて置い  
 たお前の足、  
 あの絹糸が足を痛めつけ  
 たとは、  
 どうしてもわたしには思  
 はれない

詩人キーツは愛しはぐん  
 でゐた紅い子鳩が遂に自分  
 の手許では育たなかつたの  
 を、嘆いて斯くかこつたの  
 であつた。  
 たつた一本の絹糸が足に  
 巻きついてゐたとして、それ  
 ぐらゐの束縛が何で苦しい  
 ことがあらう。而もその絹  
 糸は、注意に注意をして、  
 柔く柔くとよりあげてあつ  
 たのではないかと、彼は悲  
 しんだ。  
 然し、鳩の方から考へれ  
 ば、それは元來が森の太木  
 の中に棲んでゐた者であつ  
 た。  
 青々と茂つた木々の間を  
 枝から枝へと飛び移り、自  
 由の大氣を呼吸してゐたの  
 であつた。  
 日に幾度となく愛撫を興

へ、美しく白い豆を口に入  
 れて養つてはやつたが、鳩  
 は自由を奪はれての愛情の  
 中に身を浸し切ることが出  
 来ず、遂にその飼主の手か  
 ら永久に去つてしまつた。

△ 詩人キーツが紅い子鳩に  
 寄せた嘆きを、我々は幾度  
 か、己が身邊の若き者たち

★000000000000  
 ○明日の献立○  
 ◎00000000000★

【朝】味噌汁—ねぎ 小付  
 お多福まめ

【晝】なまり煮付  
 【晩】はまぐり カレー う  
 ど さわ煮

△ 近頃の若い女性が驚くべ  
 き情熱を以て『自由』とい  
 ふものを追求することを、  
 我々は知つて知つてゐる。

△ 最近、世上を驚愕させた  
 某名家の令嬢の家出事件の  
 如きはその一例である。浮  
 世の荒浪に揉まれたことも  
 ない、うら若い令嬢が突然  
 に邸を脱け出し、喫茶店の  
 女給になつて働いてゐたと  
 多ふ事實を、一體如何に解

釋していつのか、それは恐  
 らくその令嬢の親なる人々  
 にも完全には理解出来ぬ不  
 思議な、少女の心理であら  
 う。

△ 然しながら、このやうな  
 事件は決して今度が最初で  
 はない。たまたま、その家  
 が名家であつたが故に、非  
 常なる珍らしい事件のやう  
 に取扱はれただけで、事件  
 その物は都會にも地方にも  
 屢々繰返されてゐるものな  
 のである。

△ 然らば、一體、何が近代  
 の若い女性をしてかく無方  
 針、無軌道の行爲を取らし  
 めるのであらうか。親たる  
 者、長上たる者は、彼等の  
 位置に身を置いて、つゞさ  
 に考察する必要があると思  
 はれる。

一冊の代金で

御希望通りな

五冊の雑誌が

自由に讀める

川崎巡 回文庫

電六三〇番  
 (申込次第規則書進呈)

毎度御引立を戴いてゐる  
 藤寅では例年通り  
 冷たい美味しい飲物

アイスクリーム アツキアイス  
 ミルクセイキ ソーダ水  
 ミツ豆 クリームソーダ  
 其他氷水各種

相初めました是非夏の夕の御散歩  
 歸へりに御立寄り下さい  
 平一丁目

迅速 出前  
**藤寅**  
 電話一四一番

僅かの氷で非常に早く  
 よく冷える!

丸ほん冷蔵器

御家庭にも御營業にも最も  
 理想的な冷蔵庫

今年外壁の絶縁装置を特に完全に改良を加へま  
 したので、より一層僅かの氷で非常によく冷える  
 様になりました。内部の構造にも一大改良を加へ  
 ましたので排水が良くすべて便利になりました爲  
 に貯蔵される期間も延長されました。価格は...  
 精選した材料を完備した製法に依る大量生産の爲  
 良品を廉價に御提供する事が出来ます。  
 丸ほん新家庭型...金十五圓より  
 丸ほん新家庭型...金七十圓より  
 ▼各種豊富陳列(御一覽を願います)

株式会社(本)丸ほん商店

營業所 平町三丁目一六  
 電話三五九番 製作所 平町新田前  
 振替東京二七二四 電話一八二番

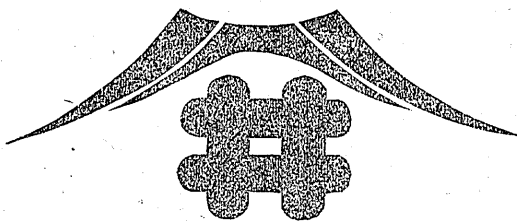
喜多流謡曲と仕舞の

お稽古を奨め致します

喜多流 謡曲 舞白 土會  
 平町田町六九  
 電話一二七番

景品付大賣出

◆景品 九升詰壹樽御買上毎二優  
 良化粧石鹼三ヶ入壹箱  
 ◆特賣期間 自六月五日  
 至七月卅日



油醬キヅフ

念記設開所張出平

賣特油醬傳井水戸

定九	最上	フジ井印	三圓九十錢
升	次	フク井印	三圓三十錢
並	カク井印	一圓八十錢	

平町田町

井傳醬油出張所

水戸市井傳醬油醸造元  
 電四六番

特約店御希望ノ方ハ御報次第參上

# 舊師を尋ねて卅年

## 喜多方より傳ふ 教育美談

▽……墓前に  
▽……報恩の供養塔

話中の人は山崎清三氏

喜多方町の某氏から、最近同町に於ける中學校、女學校、小學校等に於て非常な感激を以て迎へられるつゝある『教育美談』が本社宛に通信された、然も此の佳話の中心人物が平町の素封家古鐵治町山崎清三氏である事に依つて一層われ等の關心を深め、その人格の片影に多大の崇高美を認識せしめて止まぬものがある、今茲にその通信の原文の儘を掲げ、われ等は襟を正して再讀玩味したい……

喜多方の町はずれに安勝寺と云ふ古刹が御座います、この墓所に顧みられぬ荒れはてた一墓標がながの年月風雨にさらされて居る前に、これは似つかぬ眞新しい丈餘の供養塔が何事かを語りげに散策の人々の好奇をそゝつて立つて居ります、塔面を讀めば「故鳥藤才八先生追善供養塔」と記され、裏に廻れば「昭和十年五月十二日平第一小學校明治三十二年卒業生一同代表者山崎清三」と讀まれます、遠地の人の手にかゝるこの供養塔、それも時代めいた塔の文字と訝りて和尚の居間を訪れば、我が事の如く和尚は涙たへて次

ぜられた名刺を見ますと、平町山崎清三として御座いました、この方が突然鳥藤才八先生の追善供養をいたしたいと申されました。才八先生は私の先生です、喜多方塾の創始者で私はその初期の生徒ですが私でさへ忘れて居つた故人とどういふ關係がござりかと山崎氏に尋ねました處、申されま

### 市制財政調査の道草物語(四)

川崎 文治

去る五月十二日でした、飄然として當寺を訪れて来た一紳士が御座います、通の如く語ります。  
其の方は今を去る四〇年前僅かに一ヶ年故人平小學の「鵜飲み」が好いか悪いかは別問題として、市當局と市會が揮然一致して市制の刷新に當る處に、足利市今日の進展があると思ふ、

校在任の砌りその訓誨を受けたと言ひます、時日短かけれど其の印象は強く、中學に入つてもしばしその全期生と共にその門を叩いて教を乞ふたそうです、その内才八先生は安積中學に轉ぜられ再會を約して別れたさうですがその間一回師を思ふの餘り無銭旅行をくだたて、先生を郡山に尋ねたが友の關係上したしく際を交へての談話も出来ず別れた儘それから己が身にも

死を知つてからは自らの所の用折り人づての及ぶ限り遺族を求め菩提所を探しましたが仲々に知れず大變氣にかけられて居られたとの御話です、處がようやう當地の喜多方塾の後継者高畑塾長と相識りまして當寺を知られ、欣々然として同窓にはかられて追善供養となつたとおつしやられて居りました、

### 古河で毎朝 ラヂオ体操

好間村古河炭礦は従業員家族の健康増進を畫る爲め本月一日より毎朝小館グラウンドに參集午前十時から蓄音機ラヂオ体操を行つて居ると

### 平町人事

- △南町當時茨城縣西茨城郡岩瀬町字大田鈴木源次郎氏三男保夫 婚
- △飯野村字廣町七一 江尻則之氏(三四)田町當時東京市江戸川區小岩町五丁目青木タキ(二三)さん

### 東京短期(前場)

寄付	大引	高値	安値
新東	三〇〇	二四〇	一七〇
大新	八〇〇	六〇〇	四〇〇
新新	三〇〇	二〇〇	一〇〇
新新	二〇〇	一〇〇	〇
帝人	六〇〇	四〇〇	二〇〇
東洋	三〇〇	二〇〇	一〇〇
日魯	二〇〇	一〇〇	〇
日石	一〇〇	〇	〇
日産	九〇	八〇	七〇
日電	八〇	七〇	六〇
新日	七〇	六〇	五〇

### 期米

東	東	大
一節	二六九	二九三
二節	二六九	二九三
三節	二六九	二九三
四節	二六九	二九三
五節	二六九	二九三
六節	二六九	二九三
七節	二六九	二九三
八節	二六九	二九三
九節	二六九	二九三
十節	二六九	二九三

町野・丸井株式会社調(電四六番)

# 犬が拾つた 大金の出所

## 俄かに平署の 刑事課が活動

昨報一平町四丁目鱗屋雜貨店の飼犬が拾つた大金四百五十圓のハンガチ包みは未だに落し主が判明しないが、何人か此の大金を犬小屋に

# 小僧さんが 落したとの届出

別項犬の拾つた大金は平署に於いてその出所を捜査中の處本日午後一時頃飼主の鱗屋雜貨店から「私宅の小僧が遺失した金です」と届出した。夫れに依ると小僧さんが集金の紙幣束を何處へか落したのを主人に知れて叱られるのを憚れ其儘だまつて居た處幸ひに飼犬が発見くわえて來たのだつたといふ

# 縣下商業 教育協議

縣下商業教育協議會は昨十七日午前十時卅分より平商業學校會議室にて開催矢野校長の開辭に於いて福商近藤校長を議長に推し古川縣視學よりの訓示あり、正午休憩後協議に入り商業科を課する小學校並に青年學校教員のために縣に於て商業

# ビクタリの 移動演奏

## 今晚野外で

日本ビクター蓄音器會社の宣傳用演奏自動車は本十八日平町に入り直に市内各大通りで移動演奏會を行つたが更に一般のレコードファンの爲め今晚七時から博覽會跡で野外大演奏會を開く

# 玉川村の田植

村は去る十三日より一齊に田植を開始したが岡小名、富岡の各一部に水不足を見て居る外一般に田植不能の箇所も少なく廿日頃迄に終ると

# 小名濱の町會

濱町は昨十七日午前十時から町會を招集し特別税戸數割の賦課其の他を附議した

# 必死の猛練習に

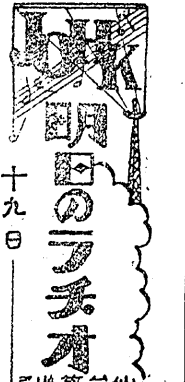
## 平商野球陣營振ふ

昨夏東北大會快勝まで駒を進め一躍近縣球界に盛名を馳せた平商野球部は今年は大會出場選手二名を残すのみの新顔揃へに拘らず過般の對戦中戦に一勝一敗の戦績を残し尚中通りの覇者安積中學には八對六の接戦で一躍人氣を回復此の分では練習次第で依然ダークホースの名に背かないとファン

# 水戸商業 野球部來平

## 野球部來平

磐城中學校併びに平商業學校野球部は來る廿三日(日)午前十時より關東の覇者水戸商業を迎へて一戦を交へることとなつた水商遠征軍のメンバー左の如し  
糸島本崎野藤 水島  
小谷坂山川伊柴頭中  
投捕(一)三(遊)左(中)右  
(二)三(遊)左(中)右



今晚も明日も南東の風曇り明日は天気次第に良くなる

# 今晚の部

- ▼後六、〇〇 子供の時間 お話「鶴飼」山下幹司
- ▼後六、二五 青年の時間 「大政治家源頼朝」法學博士牧健二
- ▼後七、三〇 講演「ウオーターローの會戦に就て」中島彌高
- ▼後八、〇〇 マンドリン獨奏
- ▼後八、〇〇 善積準平 ピアノ獨奏
- ▼後八、一五 尺八合奏「若葉」細田揚山外
- ▼後八、三〇 落語「本堂建立」柱文治
- ▼後八、五〇 浪花節「天野屋利兵衛」春日井梅燕
- ▼後九、三〇 時報 ニューズ
- ▼後八、〇〇 氣象通報 番組預告

# 到覇の 意氣高く

## 平商武道部 仙臺へ出陣

平商剣道部は來る廿三日午前七時より仙臺市で開催の東北帝大主催東日本中等學校剣道大會に出陣するが出場選手は左の七君でいづれも實力は初段以上との奥書付きの剣士揃ひであり昨年の同大會準決勝で福島高商に一本の差で惜敗したが今年こそはと制覇の意氣高く今回の活躍は大いに期待されてゐる

齊藤一夫 若松一郎 山野邊義男 牛久隆夫 葉谷泰雄 鈴木武夫 久田定男

尚柔道部も同日舉行の二高主催中等學校柔道大會へ左記選手が出場する

會川清美 西川貞吉 千葉忠雄 高橋芳雄 白井敏 千葉正雄 金成誠一郎 大和田昌司 長瀬義徳

# 古河のボーナ 昨年と大体同額

## 既に夫々手渡しされて ホク／＼の恵比須顔!

好間村古河炭礦では去る十五日上半期のボーナスとして職員七十名には俸給の二十五割乃至二十割、更に準職員廿名に對しては四十五圓から四十圓のボーナスを支給したが昨年のボーナスと大体同額であるとして一同

平町訓導出張 平第一小學校根本訓導は今十八日より郡山第三小學校で開催の勞作教育講習會へ武藤訓導は浪江小學校の唱歌講習會夫々受講の爲出席した

# 明日の部

- ▼前六、三〇 英語講座 大和資雄
- ▼前七、〇〇 朝の修養「妙法蓮華經」山口光圓
- ▼前八、〇〇 母の時間 「子供とお人形」岩村安子
- ▼後〇、〇五 新日本音樂 三重奏「小人の踊り」獨唱「故郷の空」外 菊殿翠
- ▼後二、〇〇 家庭講座「庭木の病氣」安部卓爾
- ▼後二、四〇 小學生の時間 理科「梅雨のめぐみ」大谷東平
- ▼後三、一〇 教師の時間 「日本文學の特質に就て」文學博士野村八良
- ▼後六、〇〇 子供の時間 童謡と唱歌「八幡小學校々歌」仙臺市八幡小學校兒童 齊唱「日光山」仙臺市東六番町小學校兒童
- ▼後六、二五 基礎英語講座 岡倉由三郎
- ▼後七、三〇 講演「東西交通史を辿りて」笠間泉雄
- ▼後八、〇〇 ラヂオライオン「陸の港」古川綠波外
- ▼後八、三五 合唱「水の巻」
- ▼後八、五五 ラヂオ風景 「空の巻」C.R.男女優

# 急激な出荷に 高値を割る

## 昨日の四倉市場

既報去る十五日開市以來高値續きの四倉市場は昨日に於て俄然白米二百八貫百三十匁、黄米二十四貫百九十匁と云ふ急激に大量出荷を見たので忽ち相場に影響して前日迄續いた四圓十錢の高値は割れて四圓一錢に低下したが夫れでも昨年の三圓臺よりは高値なので今後兩の出荷は愈々本格的となるであらうと十七日の取引左の如くである

(白米)千二百八貫百三十匁 最高四圓十錢、最低三圓九錢

郡南市場 十八日に 郡南養蠶家待望の植田、勿來兩市場は本十八日午後四時頃から開始されるが初取引は兩市場共出荷七八十貫位相場は最高四圓前後と見られて居る

# 千圓の白米 豆腐屋が盗む

## 豆腐屋が盗む

平窪村大字中平字横枕居任豆腐屋窃盜前科二犯林藤悦(三)は昨年十一月以來村内農家の不在中に忍び入り白米專問に約七十件、總額千餘圓の窃盜を働いたこと發覺昨十七日午後平署に檢舉目下取調中



# 明治太平記

(挿絵師 上野及上野)

(作) 寺島雄史  
(監) 野口 雄

第五百十二回

## 思慕と望郷(五)

「幾ら仇討法度の時世でも男まさりなお前さんの仇討が世間にバツとひろまると世間では烈女だの、孝女だのとほめたしへるだろ。其處で何時か日蔭者の大志賀の耳にもお前さんの仇討本懐の噂が入るわ」

「でも。外人殺しのかどでわたしたし殺されてしまつたんぢやあの方と……」

「なアに、ウエルズを殺して其の儘姿を隠すのさ。そして此のわしたけが舞臺へ現れる助太刀屋と會ふと云ふ段取りなのさ。どうだ」

「さうね。筋書通り旨くいくといふんですけど……」

「あア、其處が運命と云ふ奴さ。だが、どうせ此儘ぢや大志賀に到底めぐり會ふ手段がない。どうせウエルズを殺さうと發願したお前さんだ、仇討本懐をとげてそれで死んでも惜しくはあるまい。おとわさんやつばり仇うちだ。紅毛めを殺して死んで呉れ」

「……は、は、は」  
おとわは小さい胸を抱いてじいと考へ込んだ。

「此の儘助太刀屋と會はずにお前さんも千島へ行く氣にはなりませんまい。どうだパークスとウエルズと決闘さしてやれ。どつちか一人死んでしまふわ、残る奴がウエルズだつたら恨みの双



「はい、死にます」  
「紅毛を殺して死ぬといふのか、なアにお前さんを死なすものか其の時こそこのわが萬事引受けた。お前さんを千島へ連れて逃延るわ、大丈夫わしに任しときなされ」  
茂平次は大きく胸を叩いて見せた。

パークスの煩惱は仲々深かつた。

おとわの時と同様にせつせとホテル館に通ひながら日本政府が差し廻しのらし

をお前さんが振るふんさ。及ばずながら助太刀屋大志賀市之丞に代つてこのわしが助勢するよ。なアに剣道の覺えはないが紅毛の長脛にかぢりつく位の事ア出来るよ」

「……はい、有難う存じます」  
「やるか」

やめんを思ふが儘に出来ぬその恨みなのだ。

おれには不可能といふ文字は不用だ。

と、常にナポレオン張りに豪語して居るパークスが東京の小島國の婦人を自由に出來ぬなど、もしそんな事があつたら自分の光輝ある半生の歴史、汚辱される

も同然。  
しかも、一人のみかふたりまで、自分を振るとは何事だ、と思つた。  
だからパークスはおとわの時に倍して、年度のおふくを我が物にする爲めに、さんざ苦勞を重ねなければならなかつた。

其の夜彼れは非常な決意でホテル館へやつて來た。二頭仕立の黒塗馬車を門前に待たして置いて、二階の豪華な室へ上つて來た。おふくは媚笑を咲して旦那様を迎へた。  
「まア、旦那様、今日はおそうござんした事……」  
その媚ある笑顔が餘計パークスを惱した。

## 是非!

御融通には御用命下さい  
萬事便利な御相談に應じます

## 三井質店

平四・電六〇六番

**難波**

内科一般

醫學博士 **難波 睦**

看護婦募集

平町大町新川端  
電五〇〇二

**市原醫院**

平町田町(電一四番)

内科 小兒科 市原卯太郎  
外科 梅毒・淋病 市原三三男

入院隨時

## 謹告

代議士佐藤庄太郎君今般萬國議員會議列席の重大使命を帯び渡歐致さる事に相成り候へば些かその行に祝意を表し左記の如く送別の宴を開催申すべく候間多數各位の御賛成御出會を仰ぎ度此の段以紙上謹告仕り候

期日 六月二十日 午後一時開會

會場 平町住吉屋本店

會費 金一圓也

發起人 井上 茂作

小野 晋平

田子 健吉

青沼鋒太郎

木村 清治

鈴木辰三郎

萩原 義雄

金成 通

野崎 滿藏

安島重三郎

古川 傳一

## 新發賣一文字帽!!

絶体日焦けせず 雨にも丈夫な  
いつも新らしい 實用新案帽

エバー・ニュー・ストロー

四菱編 五〇ヨリ

支那麥編 六〇ヨリ

お電話次第御覽に入れます

田町通り

## 玉屋洋品店

電話六五六番

専門 産科

婦人科

花柳病科

井坂醫院

町田町 電話五五九番